

1999  
音に決着をつける!

11

厳選  
海外  
コンポ  
14

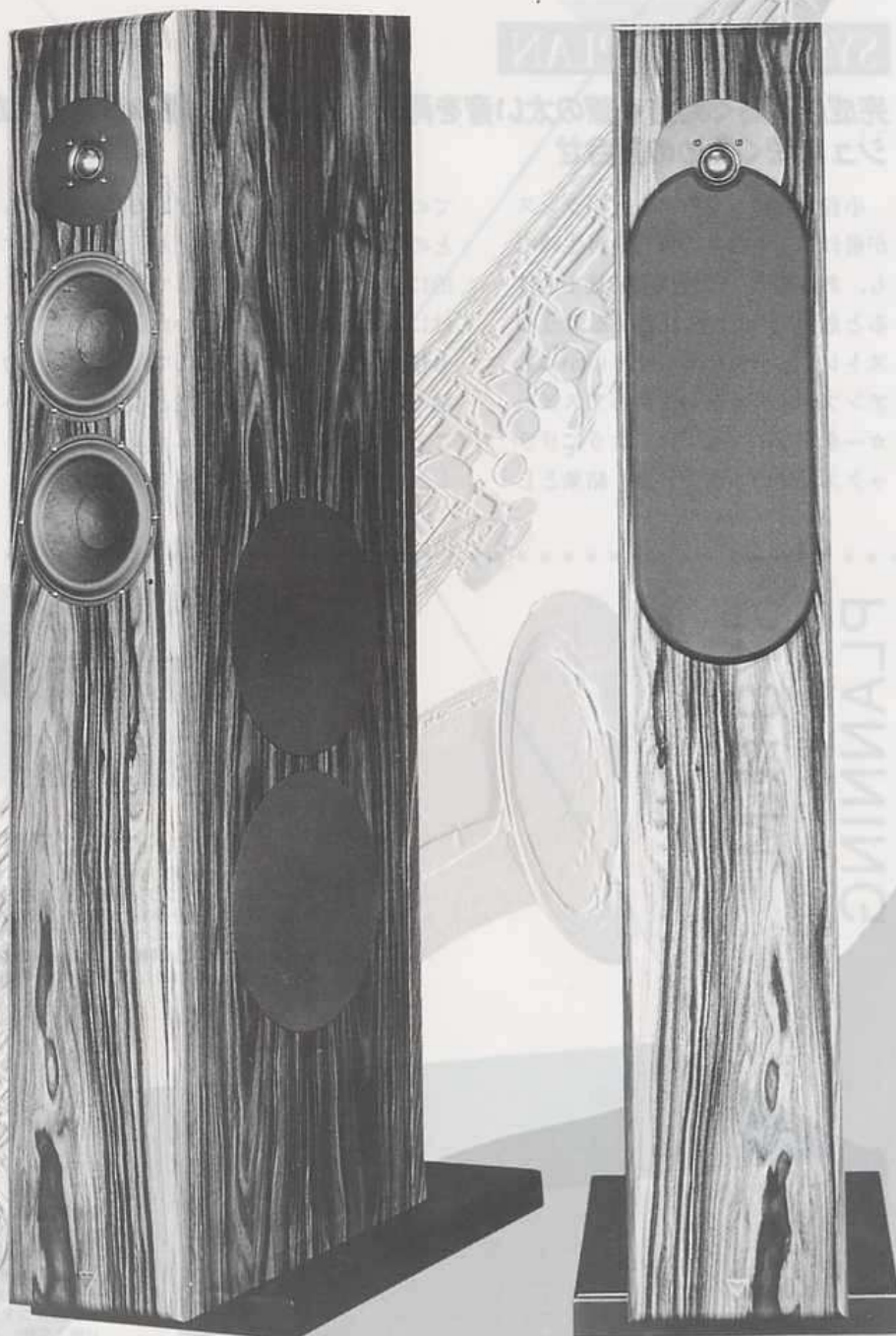
スピーカー・システム

ウィーンアコースティック

# Model T-5

## ■Model T-5主要規格■

型式：3ウェイ5スピーカー・バスレフ型(サブウーハー搭載)、使用ユニット：25cmハニカム・コーン型サブウーハー(イートン社製)×2、18cmカーボンファイバー混抄高乾燥ペーパー・コーン型スコーカー(スキャンスピーク社製)、3cmシリコン層シルク・ドーム型ツイーター(スキャンスピーク社製特注品)、再生周波数帯域：22Hz~25kHz、出力音圧レベル：90dB、推奨入力：50W~500W、入力インピーダンス：平均6Ω、クロスオーバー周波数：70Hz、4kHz、外形寸法：218×1300×465(WHD)mm、質量：68kg



資料請求先

〒367-0241 埼玉県見玉郡神川町元原98-1 三洋オプトロニクス株式会社 オーディオ部

のような仕掛けか不明だが、これもユニットの特性と思われる。スキャンスピーク社製、18cm口径。このフィルターの特性を見ると、相当にこのユニットに負担をかけ、音質のキャラクターの構築をはかっているのが分かる。6dBのなだらかなフィルターもいい選択で、経験でもこのなだらかなクロスが音

質的にいい結果をもたらす。

これを引き継ぐウーハーは、スーパーウーハーと記載されており、超低域再生を目指した事が強調されている。これも2ユニット構成で、これは並列駆動である。イートン社製のハニカムコーンで25cm口径。かぶりを排し独立性を保っていると、記載されている。具体的な事は側面

にウーハーを配置していることである。

ツイーターはシルクドームで、スキャンスピーク社製である。ウィーンアコースティックとのパートナーシップによるカスタムメイドと記されており、かなり音質の重要ポイントとなっているようだ。シリコン材でフローティングされパフルの振動から逃れている。

## SOUND IMPRESSION

### スネアの緊張感のある音がまさに張りつめた感じで再生され、表現力の確かさを実感した

ジョー・チェンバースのディスク「ミラーズ」がよかった。私の師であるデビッド・ベイカーの録音である。チェンバースの神経質な音を、凄い緊張感のあるタイトで鋭い音質で録音しているが、それを見事、几帳面に少しの落ち度もなく再現した。

スネアの張りつめた緊張感のある音、チューニングのしっかりした音が、ピンピンに張りつめた音でT-5から再現される。まさに、資料の主張通り、ツイーターがかなり音質のポイントを握っているようだ。

『ワン・ナイト・スタンド』のサウンドトラックの音質については、アコースティックな音とはかなり異なるが、ベースの動きを聴いていると、電気的サウンドの低音の反応が凄くいいのが驚きであった。スーパーウーハーが相当に重いのではないかという予想に反して、いい反応である。このCDは、パーカッションの音が相当に高音域に強調感のあ

る録音だが、このツイーターの反応では、きつく聴こえる。チェンバース盤のスネアの音質を魅力的に表現したツイーターだが、高音域強調の仕掛けがある音源だと、逆にそれが目立つ。ベースはこの音源では、反応がよくいい切れを表現していた。アコースティックのベースで下の音域を伸ばしたままの録音では、ややオーバーに響き過ぎるという印象を持ったが、これは部屋とのチューニングで解決出来る。

トータルの印象では、中高音域の印象を強くする鳴りかたが、全てを物語っている。文句なくいい音で、ジャズの緊張感に緩みを与えない。

## 試聴CD



▲ミラーズ/ジョー・チェンバース (東芝EMI: Blue Note TOCJ-66019)



▲ワン・ナイト・スタンド~オリジナル・サウンドトラック (ポリドール: Verve POCP-7354)



スラントしたエンクロージャーを持つ3ウェイ5スピーカー

カー構成の大型モデルで、その美しい外観からは想像

しにくい緊張感のあるシャープな音で音楽を再生する

試聴記 ■ 及川公生

## OVER VIEW

**3ウェイ5スピーカー構成のシリーズ トップ・モデルで、見事なエネルギー・バランスと音場再現を実現**

ウィーンアコースティックのスピーカーに下肝を抜かれたのは、この試聴室であった。スイングジャーナル誌の選定新製品での試聴である。トールボーイ型が流行った2~3年前は、輸入オーディオショウでは、どこもスピーカーはトールボーイであった。その中で特にウィーンアコースティックのModel T-2には唖るものがあった。トールボーイでソフトドームという構成は、どう見てもジャズには合わない、という見た目の勝手な判断を、このスピーカーは見事に打ち破った。堂々としたベースの音、それにリズムの躍動感を崩さない切れのよさ、シンバルのアタックのカチッとした音の堅さ、こうしたジャズの快感を崩さなかった。

Model T-5は想像したより大型、

T-2に準じたスマートさを想像していただけない、試聴室を圧倒する印象に驚かされた。

資料によると、構成のコンセプトで最も重要な点はと、説明されているものに目を通すと、ミッドバス・ユニットとなっている。私はウーハーに何か仕掛けがあると見たのだが。

確かに、ミッドバスには仕掛けがあった。2ユニット配列されているが、それらは単なる並列駆動ではなく、それぞれのユニットのフィルターが異なる。70Hz~4kHzでオクターブ6dBの自然なカーブで他のユニットに引き継ぐものと、70Hzから上はなだらかに下降と資料にあるので、おそらくユニットの特性をコントロールしているものと思われる。中低域にかけて増強、とあるのはど



▲カスタムメイドのスクヤンスピーク社製3cmシルクドーム・ツイーター。パッフルへのマウントはシリコン材を介したフローティング構造で、振動の影響を低く抑えている。



▲側面にマウントされた2個のスピーカーウーハーは25cm口径、ハニカム構造振動板を採用したもので、圧倒的な超低音再現能力を確保しているという。



▲ふたつのミッドバス・ユニットは並列駆動ではなくスタガー駆動。これは十二分な音楽スペクトラムの解像度を確保すると同時に、音のつながりをスムーズにするためのものだ。



▲入力端子は信頼性の高い2端子方式で、比較的小型の金属製だ。エンクロージャーはバスレフ型で、ポートは背面に2個設けられている。